

田岡 朋子（東京学芸大学附属竹早小学校養護教諭）
塚越潤（東京学芸大学附属竹早中学校養護教諭）
佐藤牧子（東京学芸大学附属小金井小学校養護教諭）
中谷千恵子（東京学芸大学附属小金井中学校養護教諭）
倉澤順子（東京学芸大学附属大泉小学養護教諭）
大関智子（東京学芸大学附属特別支援学校養護教諭）
新川夕貴（東京学芸大学附属国際中等教育学校）
佐藤晴香（東京学芸大学附属国際中等教育学校）
遠藤真紀子（東京学芸大学附属附属世田谷中学校）
八代りり（東京学芸大学附属附属世田谷小学校）
武井佑真（東京学芸大学附属附属高等学校）
○佐見由紀子（東京学芸大学教職大学院教授）
荒川雅子（東京学芸大学講師）
安永千里（東京学芸大学講師）

代表者連絡先：dmoon61@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】生命と性の安全教育・動画コンテンツ・ICT・オンデマンド視聴

1 はじめに

日本における ICT 活用教育の推進は、2020 年より文部科学省の打ち出した「GIGA スクール構想」の取り組みとしてはじまった。2022 年、児童・生徒への「1 人 1 台端末」等の ICT 環境の整備がされつつある中、教育現場での課題も浮き彫りになってきた。

課題 1）養護教諭をはじめとする学校教員の ICT 習熟とこれまでの教材作成との乖離
日常の業務、感染症対策と多忙を極めており、ICT に関わる研修時間の確保は難しい。そのため、GIGA スクール構想下において、ICT の活用を前提とした教材やカリキュラムを提供することは、技術的、時間的に現場では追い付いていない状況である。このことにより、適切な健康・安全教育の実施の遅延を招きかねない。

課題 2）セキュリティ管理や情報の精査において学校が主体になれない

「1 人 1 台端末」により、子供たちが自分のタブレットやスマホを通して、簡単に健康情報、性や身体の安全に関わる情報を手に入れることができるようになった。一方で、学校端末の持ち帰りや保護者の ICT リテラシーへの理解不足等が合わさって、子供達が正しい情報だけでなく偽情報へのアクセスも容易になり、犯罪被害者または加害者になる可能性も高まった。

2 本プロジェクトの目的

発達段階に応じた「健康・安全・いのち」に関わる情報を、子供達自身で精査していくことは難しい。「健康・安全・いのち」に関する正しい知識や情報を提供する必要があることや「健康・安全・いのち」に関する知識や情報を精査し、活用できる能力の育成を目的とする。

現代の情報化社会において、氾濫する性に関する情報や ICT ツールを使った犯罪被害にあわないよう、自ら正しい情報を精査し活用する能力を育成することを目標とした教材開発を行う。ICT 教育とのつながりを大切にしつつ、日常的に使用できる手軽な教材として、授業の一部で使用したり、短い学級活動などでも使用したりしやすいよう工夫をし、短時間で視聴可能な動画を作成することとした。また、児童生徒が犯罪被害にあった際の

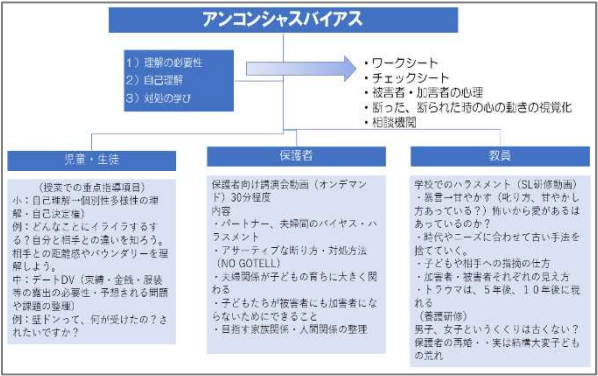
対応について、教員や保護者などの周囲の大人が、どのように被害児童・生徒と向き合い、寄り添っていくか、専門家によるアドバイスなどもコンテンツとして追加する。

3 本プロジェクトの実施（又は内容等）

本プロジェクトでは、健康的・安全・いのちに関する、今まで個々の養護教諭自身が、現場の課題や実態から行ってきた授業や教材研究の知見を活かした、オンデマンドに対応する動画コンテンツを作成してきた。

（１）「健康・安全・いのち」に係る教材のための実態の把握とプロットの作成

今まで個々の養護教諭自身が、現場の課題や実態から行ってきた授業や教材研究の知見を活かすため、附属学校園の養護教諭が取り組んできた授業や教材の実態について話し合いを行い学校現場で起こりうる「性犯罪・性暴力」に関わる事例を出し合った。話し合う中で、各校種ごとに発達段階によって、対応の差があることがわかってきた。また、動画視聴の対象者によってコンテンツ内容の精査が必要であること、小学生向け中高生向け、保護者向け、教職員向けといった対象者ごとのコンテンツ内容の精査が必要であることがわかってきた。



以上のことを踏まえ、対象別動画の作成を行った。

1）児童生徒向け動画

性犯罪・性暴力の被害者にならないための知識（プライベートゾーン）や具体的な情報を提供できるスライドを作成し、音声での解説を付けた動画を作成した。

「痴漢被害防止」に関する動画

防犯ブザーの位置、使い方、助けの呼び方、缶バッジの紹介や被害に遭った際の相談機関（性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、内閣府男女共同参画局）を紹介する内容も検討した。具体的な防衛方法として、防犯ブザーの着用や防犯ブザー以外の防犯方法、加害者の特徴を観察・記録をすること（服装、スマホ、風貌などをおぼえておこう）なども取り入れた。

「プライベートゾーン」に関する動画

プライベートゾーンの場所、お風呂やプールのとき、着替え（体育着など）で、どこを隠すといいか等、防犯ブザーや肌着・アンダーパンツの着用などの呼びかけを実施。

中学生向けとして、「より良い人間関係」について、スクールソーシャルワーカー宮下先生のメッセージ動画を作成し、中学1年生を対象とした授業で活用した。

2）保護者むけ教職員・学生向け動画の作成

性犯罪・性暴力に関わる法律についての解説としてスクールロイヤー松岡先生によるインタビュー動画を作成し、「加害者にも被害者にもならないために知っておきたいこと」について、児童生徒用「痴漢被害防止」の補足動画として、子どもが痴漢被害に遭った際の保護者や教職員の対応についてショート動画としてまとめた。

また医療心理の専門家である副島賢和先生 体の権利：保護者向けメッセージ「保護者向け子どもが性犯罪に巻き込まれたら」とオンデマンド視聴用産婦人科医遠見佐希子先生による「大人も一緒に考える。からだところのだいじだいじ～今、つたえたいこと～」の2つの動画を作成した。（表1参照）

表1：作成した動画コンテンツ一覧（作成順）

	内容・テーマ	対象者	時間	出演者他
1	性犯罪から子どもを守るために教えて副島賢和先生	保護者・教職員	5分程度4本	副島賢和先生インタビュー

2	知っておこう！自分や友達の大切なところ	児童・生徒	6分30秒	附属学校養護教諭部会編集 
3	こんな時どうする？痴漢対策編	児童・生徒	3分30秒	附属学校養護教諭部会編集
4	教職員等による児童生徒性暴力等の防止に関する法律解説	教職員・学生	200分（15分程度5本に再編集）	附属竹早小学校生活指導部安全指導教員研修会・附属学校教員研修用 第二弁護士会スクールロイヤー 松岡正高先生講演会 vol1-5
5	産婦人科医遠見才希子先生「大人も一緒に考える心と体のだいじだいじ」	保護者・教職員・学生	130分	産婦人科医遠見先生講演会（保護者向け講演会限定公開） 
6	生命の安全教育講演会「子どもたちを性暴力から守る」	保護者・教職員・学生	90分	小笠原和美先生講演会（令和5年2月23日実践報告会限定公開）
7	子供達が性被害にあった際に私たち大人ができること	保護者・教職員	10分程度	第二弁護士会スクールロイヤー 松岡正高先生インタビュー
8	特別対談一人じゃないからできること いじめ犯罪被害などの組織対応	教職員・学生	5分から10分程度4本	スクールロイヤー鬼沢先生、スクールソーシャルワーカー宮下先生対談 vol1-4
9	特別対談一人じゃないからできること 子どもを性犯罪から守る	教職員・学生	15分程度4本	スクールロイヤー鬼沢先生、スクールソーシャルワーカー宮下先生対談 vol1-4 
10	中学生のための大切な心と体を守るために～より良い人間関係とは～	児童生徒	10分程度	附属小金井地区命の安全教育授業教材 スクールソーシャルワーカー宮下佳子先生
11	歌唱教材「turupop best songs」	児童生徒	16分30秒	附属竹早小学校生活指導部安全指導用教材

動画の活用方法としては、「健康・安全・いのち」に関する動画コンテンツの発信と普及のために文部科学省事業「学校における生命（いのち）の安全教育推進事業」と共催での報告会等のイベント（令和5年2月23日）、附属学校保護者向けのオンデマンド講演会（令和5年3月）を開催した。

作成した動画は、一部限定公開のものを除き、コンテンツ配信用プラットフォーム「note：東京学芸大学・附属学校「子どもの安全教育プロジェクト」公開記事にて、現在も公開している。また教職員・学生向け研修動画については、学内のシェアポイントにて公開しており、各附属学校での校内研修動画として活用された。以上のように、附属学校園の児童生徒・保護者だけでなく、多くの人々に「生命と性の安全」に関する情報を動画コンテンツとして、発信した。



4 考察・課題(又は成果, 提言, 提案等)

今回の動画コンテンツ開発は2年間ということもあり、初期に養護教諭同士で出し合っ

変数名	平均値	標準誤差	t 値	p 値
非常に満足	2.4	0.267	8.963	.000
満足	1.1	0.198	5.725	.000
普通	0.1	0.051	1.231	.224
改善が必要	0.0	0.000	---	---

ことができ、動画作成することで、「知ってほしい」「気づいてほしい」と漠然と考えたことを児童生徒・教職員・保護者・地域・これから教員を目指す学生に効果的に発信・普及することが可能となった。

保護者むけ講演会の事後アンケートの結果（HAD 分析）では、動画の内容について、満足度が高かったことがわかった。自由記述でも内容についての具体的なコメントが多かったが講演時間については課題も見られた。「視聴時間が長かったので2倍速で拝見しましたが、最後まで子供に見せるのは難しかったです。」といったコメントもあった。

教職員・学生むけ「教職員等による児童生徒性暴力等の防止に関する法律解説」についても附属学校運営部に協力いただき、事後アンケート自由記述について分析しコンテンツの成果について7つのカテゴリーに分類した。（視聴回答人数高校：105 中学校：52 小学校幼稚園：82 人特支：7 人合計 246 人）

教育的コンテンツの有用性：竹早小のコンテンツは法的側面を専門家により解説されており、学校現場での事故防止と対応に役立つ。

自己認識と課題：自分は生徒に対して性被害を行わないと考えていたが、他の教員の行動や自分の手の届かない場での生徒の被害への寄り添い方について考える必要がある。

被害の認識と対応：人々は被害と感ずる程度が異なることを認識し、同意なく人の心に踏み入ることは暴力的であると伝える必要がある。

継続的な研修と対応の向上：性暴力やハラスメントに関する研修を定期的に受講し、最新の情報を得ることが大切である。

コミュニケーションと組織づくり：教員同士の気軽な相談や情報共有が重要であり、性暴力の芽を摘むために組織的な向上を図る必要がある。

性暴力の多様性と啓発：性暴力はさまざまなケースで起こり得ることを理解し、具体的な事例を学ぶことで自己認識を確かめられた。

男性の性被害について：男性の性被害についても理解を深め、啓発活動が必要である。

性犯罪・性暴力についての理解が深まったことがわかってきた一方で、保護者事後アンケート同様に「視聴時間の長さ」への課題が見えてきた。

令和5年度は、コンテンツの作成にあたり、児童生徒向け動画だけでなく、教職員・学生むけの動画についても、「短い時間で伝える。」ことを意識しつつ、現場の困り感や判断に困ることなどについて、専門家による対談形式の動画の作成を考えた。

現場の養護教諭が、一人では発信しにくい健康課題や性犯罪・性暴力に関する事例などを「伝える」手段の一つとして、動画コンテンツを授業や研修・講演会等を発信していきたい。